

やさしい解説

AIT通信

Accounting Information Technology

2007年(平成19年)10月創刊
第4号 平成20年1月号

お餅は
丸であが
角であが



発行
MCS グループ
有限会社エーアイティ研究所
〒969-1169
福島県本宮市本宮字小原田 200 番地 2
TEL 0243-33-5538 FAX 0243-33-4467
URL <http://www.motomiya-mcs.jp/ait/>
E-Mail info@motomiya-mcs.jp

データを守る

会社にはなくてはならない存在となった“パソコン”。財務や給与の情報、図面や商品の情報など、業務に欠くことのできない情報の多くが、パソコンの中に入っているのではないかと思います。

しかし、この“パソコン”には寿命があります。突然パソコンが動かなくなったときのことを、お考えになったことはありますでしょうか。

<家電の寿命>

昨年12月23日の朝日新聞(be日曜版)に『家電の寿命』という記事が掲載されていました。

内閣府の消費動向調査によると、長持ちの筆頭は“電気冷蔵庫”と“ルームエアコン”で、10~11年持つとされています。設置もたいへんな機器ですから、そう簡単に壊れられては困ります。

ところで“パソコン”とは言いますと、4~5年との結果が出ています。(確かに、法定耐用年数は4年です)

<データの金庫“ハードディスク”>

パソコンの中には、大切なデータを格納するための“ハードディスク”という部品が入っています。

ハードディスクの中では、金属の円盤が1分間に約5,000~7,000回転という高速で動いています。7,000回転のレコードプレーヤーが入っていると想像していただければ良いかと思います。

部品には“寿命”が必ずあります。ましてや高速回転の部品となれば、磨耗や発熱などの要素が加わり、より一層、寿命には気を配らなければなりません。

多くのメーカーが、ハードディスクの寿命を以下のようになっています。

・1日8時間で365日使用した場合 ⇒ 5年

(パソコンの他の部品も概ね5年)

そして、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)では、ハードディスクを「使用頻度や使用環境などにより寿命が短くなる可能性のある部品」としています。

つまり、寿命は概ね5年となっていますが、状況によっては、より短時間のうちに故障、あるいは寿命となってしまうのです。

それでも、大量のデータを格納できる部品として、ハードディスクはまだ主流です。



<転ばぬ先のバックアップ>

さて、今夜突然、冷蔵庫が壊れたとしましょう。

今の時期ですから、食材を取り出して、ビニール袋に入れて、ベランダにでも置いておきましょうか。それでも数日間は持つかも知れませんが。

しかし、電源が入らないパソコン、電源が入っても異音が生じて使用に耐えないパソコンだった場合はどうでしょうか。

データを取り出そうにも、どうにもできない。こうなってしまうたら、どうしようもありません。

パソコン本体は諦めることができたとしても、何年もかかって蓄積した業務のデータは会社の宝であり、何物にも代え難いものです。

大切なデータを守るために、是非とも、普段からの「バックアップ」(データのコピー)をお願いします。

<どうすればいいの?>

かつて、バックアップはフロッピーディスクに取っておくのが主流でした。しかし、業務のパソコン依存度の高まりに比例して、もっと多くの情報を、一度にバックアップできることが要求されています。

そこで、最近安価になってきた“USBメモリ”を使う機会が多くなりました。安価・可搬性の良さ・取り扱い易さなどから、バックアップの主流になりつつありますが、データを格納する容量には限界があります。

<お勧めします、外付けハードディスク。>

大容量、しかも接続・交換が容易な“外付けハードディスク”を、バックアップ用として是非お使いください。

パソコンに直接繋いで使用する“USBタイプ”や、社内のネットワークを介して、みんなで共用することができる“LANタイプ”など、方式・容量とも豊富です。

また、予約をしておくで自動でバックアップを行ってくれるソフトウェアが添付されていますので、毎回、コピー → 貼り付けなどの操作をする必要はありません。

さらに一歩進んだバックアップとして、“サーバー”や“NAS”といった装置を使う方法もありますが、またの機会にご紹介させていただきます。

<ご相談ください>

「せめて、財務や給与のデータだけでもバックアップしておきたい」ですとか、「もっと頑丈なバックアップは無いのか」など、ご要望やご心配事など、どうぞご相談ください。

編集後記

ハードディスクは1分間に7,000回転ですが、私の世代で「回転数」というと“33”や“45”でしょうか。寒い時期、レコード針にドライヤーの熱風をかけてあげると反応が良くなるとか、1円玉で重しをすると音が締まるとか、いろいろ試したものです。昭和の頃の話です。現在、私の手元にはレコードプレーヤーが無く、少ない小遣いで買い集めたLPは友人宅に預けてあります。今の20代の方は、生まれた時からCD/MDの世代。隔世の感があります。(郡司)